

環境活動レポート

令和1年7月～令和2年6月



株式会社 田名部組

作成 令和2年9月3日

I 環 境 経 営 方 針

環境理念

株式会社田名部組は、大正13年に創業し、総合建設会社として設計・施工及びメンテナンスを通して、より良い構築物を提供することで地域社会に貢献してきました。

当社は近年ますます深刻化する地球温暖化や環境破壊等への対応が最重要課題であることを認識し、経営における課題とチャンスとを踏まえ、環境経営システムを継続的に改善しつつ、全社一丸となり自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことを誓約いたします。

また、国際社会の共通目標である、【SDGs】へ賛同し、目標達成に向けて取り組んで参ります。

環境保全への行動方針

1. 地球温暖化防止のために、電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素の排出削減を推進いたします。
2. 限りある資源を有効活用するため、廃棄物削減と資源の有効活用を推進いたします。
3. 水資源の有効活用のために、節水に取り組めます。
4. 建設工事においては、安全・品質・環境に配慮した施工を推進いたします。
5. 地域社会における環境保全活動に積極的に参画し、社会貢献活動を推進します。
6. グリーン商品を優先的に購入するとともに、お客様にグリーン商品の購入を提案・販売していきます。
7. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
8. 化学物質を適切に管理し使用量を削減します。

制定日： 平成22年5月19日

改定日： 平成26年11月6日

改定日： 令和2年7月1日

代表取締役 田名部 智之

SDGsへの取り組み

田名部組は、「SDGs(エスディージーズ)」へ賛同し、目標達成へ向けて取り組んでおります。

SDGsとは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

◇SDGsに関する様々な取り組みの内、特に3項目に重点をおいて活動しています



ターゲット 2.4
2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱(レジリエント)な農業を実践する。

安心安全の無肥料無農薬による農作物の生産を人材を派遣して応援しています
当該自然栽培法により土壌劣化のない持続可能な農業を展開してます



ターゲット 7.2
2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。

太陽光発電所や風力発電所等の再生可能エネルギーの建設、運営、メンテナンス事業を展開しています



ターゲット 9.1
全ての人々に、安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展を。また、人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む、質の高い信頼できる持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する。

建設業である我が社は技術力を磨き質の高いインフラの整備や開発を目指しています

Ⅱ 組織の概要

1 名称及び代表者名

株式会社田名部組

代表取締役 田名部智之

2 所在地

本 社	青森県八戸市石堂2丁目11番21号
見立山事務所	青森県八戸市大字河原木字見立山6-54
仙台支店	宮城県仙台市若林区伊在二丁目22-12 アサノビル2F
東京支店	東京都千代田区岩本町2-19-7 堀口ビル3F
南三陸営業所	宮城県本吉郡南三陸町志津川字小森31-1

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者	総務財務部長 下河原 郷	TEL:	0178-20-1414
担当者	総務財務部 渡辺 佑香	TEL:	0178-20-1414

4 事業活動の内容

建設業

土木一式工事、建築一式工事、一般住宅
(許可業種:土木、建築、とび土工、鋼構造物、舗装、しゅんせつ、造園、水道、大工、内装、電気)

5 事業規模 令和元年度

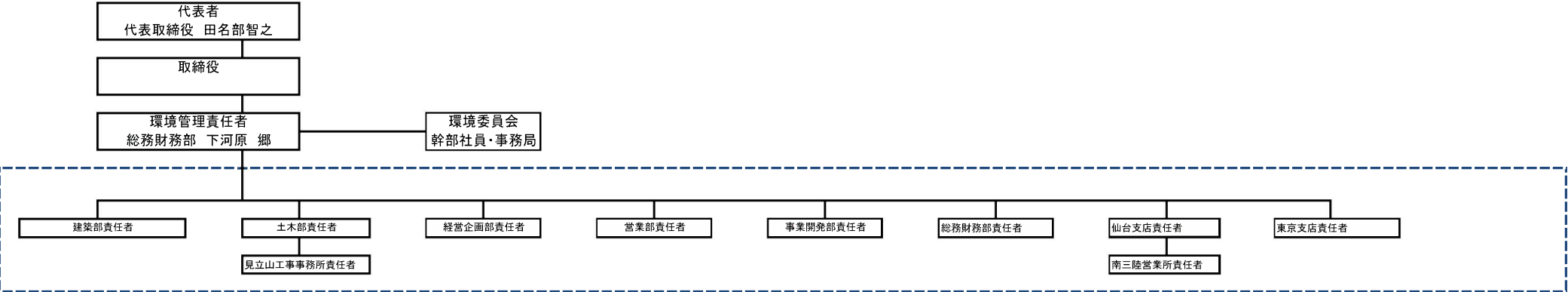
		本社	見立山	仙台	南三陸	東京
工事出来高	81億円	43億円	0	16億円	5億円	17億円
従業員数	136名	108名	4人	11人	6人	7人
事業所の面積	4,257	3,357	130	350	200	220

6 事業年度 令和元年7月～令和2年6月

7 対象範囲(認証・登録範囲) (株)田名部組の全組織及び全活動

8 活動レポートの対象期間 令和1年7月～令和2年6月

6 株式会社田名部組 EA21実施体制図



環境経営システム 役割・責任・権限表	
	役割・責任・権限
代表者(社長) 田名部 智之	・環境方針の策定 ・環境経営システムを行う人材の育成 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営の統括責任者として、環境活動の評価と見直し。 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者 下河原 郷	・環境活動の運営 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境目標と計画の承認 ・環境活動レポートの確認
環境事務局 下河原他2名	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷チェック・取り組みへの自己チェックの作成 ・環境レポートの作成と公表 ・環境関連法規のとりまとめと遵守状況のチェック ・環境目標と計画の原案の作成
部門責任者	・環境への取り組みへの喚起 ・自部門に関連する環境活動の実施 ・環境方針の周知徹底 ・環境目標の達成度の調査への協力
全従業員	・環境方針の理解と実施 ・決定事項の実践と自主的な環境活動への参加
環境委員会	・環境委員会は役職者で構成 ・環境活動について検討し、事務局や従業員に指示を出す。

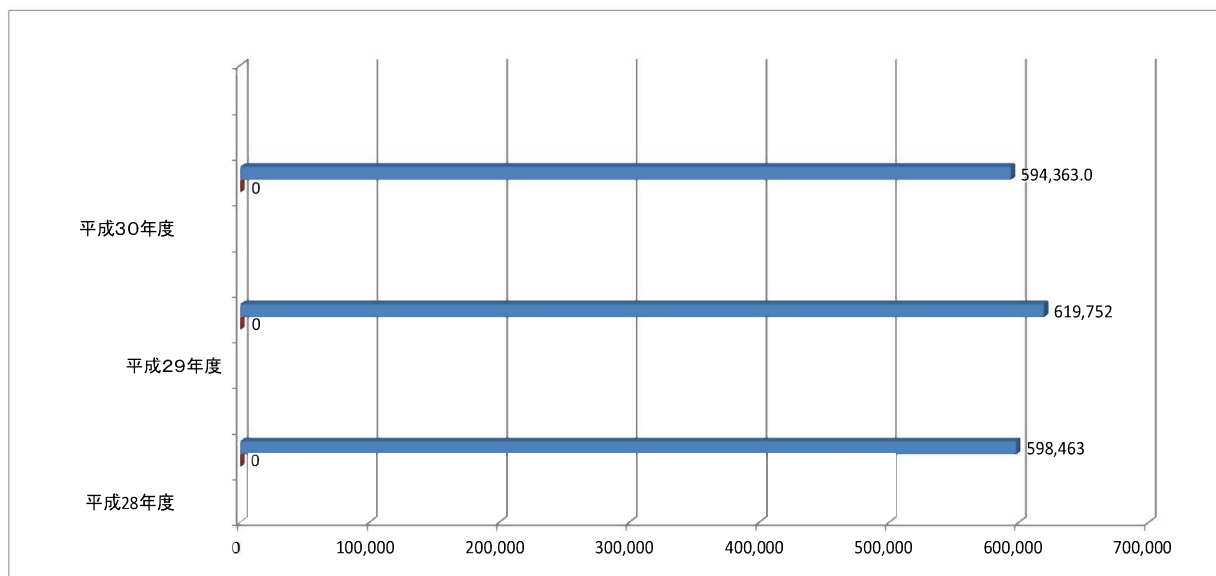
Ⅲ 環境目標

1 主な環境負荷の実績

表1、主な環境負荷等の実績

項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	598,463	619,752	594,363.0
電力のCO ₂ 排出係数	(kg-CO ₂ /KWh)	0.571	0.571	0.473
廃棄物排出量	t/年			
産業廃棄物排出量	t/年	16,554	7,019	10,399.3
一般廃棄物排出量	kg/年	8.9	8.0	4.2
総排水量(水資源投入量)	m ² /年	646	1,089	3,312.0
化学物質	kg/年	353	328	368.0
グリーン購入	品目数/年	—	—	55
自らが施工・販売する製品及びサービス	万円/年	51,000	51,000	403.0
社員数	人数	161	161	136.0

図1 CO₂排出量の推移



2 環境目標の設定

当社では、平成29年度を基準年度として中長期及び単年度の環境目標を、それぞれ表2のとおり設定し、環境活動に取り組んでおります。

表2 環境目標設定書(平成30～令和2年度
年度)

コア指標	環境方針	環境目標項目	削減率又は増加率(%)	基準年度	年度毎目標値 (基準年度に対する削減(増加)率)			中長期の目標
			単位	基準値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30～令和2年度 年度
二酸化炭素 排出量	省エネルギー の推進	電力の削減	削減率(%)	平成29年度	1	2	3	3
			kwh	259,870	257,271	254,673	252,074	252,074
		灯油の削減	削減率(%)	平成29年度	1	2	3	3
			L	24,504	24,259	24,014	23,769	23769
		LPGの削減	削減率(%)	平成29年度	1	2	3	3
			kg	1,115	1,104	1,093	1,082	1082
		ガソリンの削減	削減率(%)	平成29年度	1	2	3	3
			L	105,187	104,135	103,083	102,031	102031
二酸化炭素 排出量の削減	省エネルギー の推進	軽油の削減	削減率(%)	平成29年度	1	2	3	3
			L	61,994	61,374	60,754	60,134	60134
			L	61,994	61,374	60,754	60,134	60134
二酸化炭素 排出量の削減	二酸化炭素排 出量の削減	二酸化炭素排 出量の削減	削減率(%)	平成29年度	—	—	—	—
			kgCO ₂	613,720	607,583	601,446	595,308	595308
廃棄物排出 量	一般廃棄物の 削減	ごみの削減	削減率(%)	平成29年度	1	2	3	3
	再資源化の推 進	再資源化率の 増加	再資源化率 (%)	平成29年度	4,159	4,117	4,075	4075
水使用量	節水	節水	削減率(%)	平成29年度	1	2	3	3
			m ³	1,089	1,078	1,067	1,056	1056
化学物質		化学物質の管 理推進	削減率(%)	平成29年度	行動目標 ・化学物質を適正に管理し、定期的に確認する。			左に同じ
グリーン購入	グリーン購入 の推進	事務用品等環 境配慮製品の 使用推進	増加率(%)	2018.6	行動目標 ・環境物品の購入を推進する。			左に同じ
			品目数	—				
自らが施工・ 販売・提供す る製品及びサ ービスに関す る項目	環境に配慮し た施工推進	環境配慮型施 工等の推進	増加率(%)	平成29年度	行動目標 ・建設現場等において環境に配慮した施工や 作業の推進に努める。			左に同じ
地域貢献	地域貢献活動 の推進	清掃活動等	増加率(%)	平成29年度				
			件数	15	23	27	31	31

購入電力の排出係数は、平成29年12月21日公表、東北電力㈱の調整後排出係数0.548を使用しました。

Ⅳ 環境活動計画

当社では、環境方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境目標を達成するため、従業員が丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取組んでおります。
取組の実施状況の評価結果は、表4のとおりです。

表4 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目		取組内容
二酸化炭素排出量の抑制	購入電力使用量の削減	①夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源を切る。 ②照明の適正化、昼光の利用、スイッチの適正管理を積極的に行っている。 ③建設業の規模に応じた建設機械を使用して効率化を図っている。 ④高効率蛍光灯等の省エネルギー型照明器具に切り替えるようにする
	重機・車両用燃料使用量の削減	①自動車、建設機械燃費向上目標の説明 ②乗合による現場への集合を促進する。 ③建設機械等の作業を停止するときはエンジンを切る ④アイドリングストップ等運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐車中のエンジン停止等）する。 ⑤低酸素型建設機械の導入を図る ⑥タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つように努めている。
	灯油・LPG使用量の削減	①暖房の燃料を節約するため、ウォームビズを推進する。 ②使用していない部屋の灯油ストーブは停止する。 ③湯沸かし器の設定温度を低めに設定する ④沸かしたお湯は、保温機能の付いた容器に速やかに移す。
	一般廃棄物排出量の削減	①両面印刷、両面コピーを徹底している。 ②シュレッダーの使用を機密文書に限っている。 ③使用済封筒の再利用を行っている。 ④電子メディア等の利用によるペーパーレス化に取り組む。 ⑤ミスコピーの防止のため、使用後はリセット設定を行っている。 ⑥業務連絡に電子メール・電子FAXを利用し、ペーパーレス化に務める。 ⑦資材等の再利用ができるように保管状況を改善する。
	産業廃棄物の排出量の削減。リサイクルの推進	①施工温度の影響による品質劣化を防ぐため、温度管理を徹底している。 ②再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用している。 ③商品の購入時には簡易包装のものを優先的に購入している。 ④OA機器等の故障時には、修理可能かどうかをチェックし、可能な限り修理することで長期使用につとめている。 ⑤産業廃棄物は再資源化を行う業者に委託する。 ⑥分別を徹底する
節水		①建設機械を洗車する際には泥等を一度落としてから水を使用している。 ②雨水の利用を徹底する。 ③水道配管からの漏水を定期的に確認している。 ④水を利用する工事については、あらかじめ工法等を検討し節水を心がける。
化学物質の削減		①建設現場等で使用する有害性の化学物質は、流出防止対策を徹底している。
グリーン購入		①再生可能、有害性の化学物質の含有量が少ない等の建設資材等を購入している。 ②文具備品等は、エコマーク商品を購入する。 ③再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用している。
環境に配慮した施工推進		①太陽光発電の機能を有する仮設設備の利用を促進する。 ②環境配慮型の採用や環境配慮型施工の提案をしている。
地域貢献その他		①定期的に地域の清掃活動を行う。

環境活動の様子



環境教育



毎週実施している地域の清掃活動



建設現場AEDの常設



避難及び消火訓練



風力発電所 インターシップ



太陽光発電所 安全衛生パトロール

V 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、令和元年7月から令和2年6月までの実績についての評価結果を報告いたします。

概ね目標を達成いたしましたが、現場の軽油の使用量が増加しています。

建設機械での利用が要因として考えられます。

現場の増加が原因と思われますが、建設機械の選定と運転を効率よく行うことを心がけたいと思います。

表4 当該年度の環境目標の達成状況等

※令和元年7月～令和2年6月まで

項目	単位	当該年度※		環境目標の達成状況
		目標値	実績値	
1、電力の二酸化炭素	kg-CO ₂ /年	140,984	122,178	達成
2、燃料の二酸化炭素	kg-CO ₂ /年	466,59	419,346	達成
3、二酸化炭素合計	kg-CO ₂ /年	607,578	541,523	達成
4、一般廃棄物	t/年	4.159	3.8	達成
5、産業廃棄物 (再資源化率)	%	90.5	94.1	達成
6、水使用量の削減	m ³ /年	1,078	2,885	未達成
7、地域貢献の推進	件数	27	27	達成

VI 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

1. 取組結果の評価

表5 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目		実施状況の評価	主な取組内容	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の抑制	照明	○	①LEDの設置により省エネルギー化をすすめる。 ②照明の適正化、昼光の利用、スイッチの適正管理を行う。	取組を継続する
	冷暖房	○	①扇風機の稼働することにより、空調の効率化を図る。 ②暖房の燃料を節約するため、ウォームビズを推進する。	
	節電	○	①夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源を切る。 ②現場において太陽光発電を設置したトイレを使用する。	
	重機・車輛その他	○	①アイドリングストップ等運転方法の配慮する。 ②テレマティクスを使い、社有車の稼働状況の管理を徹底する。 ③現場の掲示板等に、エネルギーの節約を促す社内報を貼り、関係者の省エネに対する関心を促進する。 ④現場担当者に、太陽光発電が設置されているトイレの使用を促す。 ⑤燃焼バーナーの温度調整を適正に行う。	
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	○	①両面印刷、両面コピーを徹底する。 ②シュレッダーの使用は機密文書に限る。 ③使用済封筒の再利用を行う。 ④電子メディア等の利用によるペーパーレス化に取り組む。 ⑤アルミ缶やペットボトルの回収を行っているプロジェクトに参加し、リサイクルを促進する。	「④電子メディア等の利用によるペーパーレス化に取り組む。」については、長期のプロジェクトチームとして推進する
	産業廃棄物	○	①産業廃棄物の処理業者を精査し、リサイクル率の高い業者に発注する。 ②分別を徹底する ③業務連絡に電子メール・電子FAX を利用し、ペーパーレス化に努める	取組を継続する
節水		△	①水道水からの漏水を定期的に点検する。 ②蛇口に節水コマをつける。 ③雨水を利用する。	徹底されていなかったもので、さらに周知を徹底する
化学物質		○	①建設現場等で使用する有害性の化学物質は、流出防止対策を徹底している。	取組を継続する
その他の取組		○	①定期的に地域の清掃活動を行う。	取組を継続する
グリーン購入		○	①一部の工事の材料購入に際して実施している。 ②文具、備品はエコマーク商品を購入する。	事務用品については取組を継続する。建設現場については、徹底の強化を図る。
製品・サービスに関する取組		○	①太陽光発電所の運営を行う。 ②風力発電に取り組む。 ③環境にやさしい施工をする。(重機及び資材の選別、自然環境を考慮した施工の実施)	風力発電については、検討を進める。

○:評価できる、△:まずまず評価できる、×:評価できない

VII 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける建設リサイクル法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ、違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題が有りませんでした。

VIII 代表者によるエコアクション全体の評価と見直し

今回も、全般的に目標を達成できた。

当社では再生可能エネルギーを利用した発電所の運営に深くかかわっている。

自社のCO2の排出削減は勿論、事業においても環境問題に向き合った事業今後も積極的に展開していきたい。